

第2回愛媛大学デジタル情報人材育成機構シンポジウム
「オープンバッジが変える私たちの学び」

マイクロクレデンシャルの グローバル展開と大学教育の未来

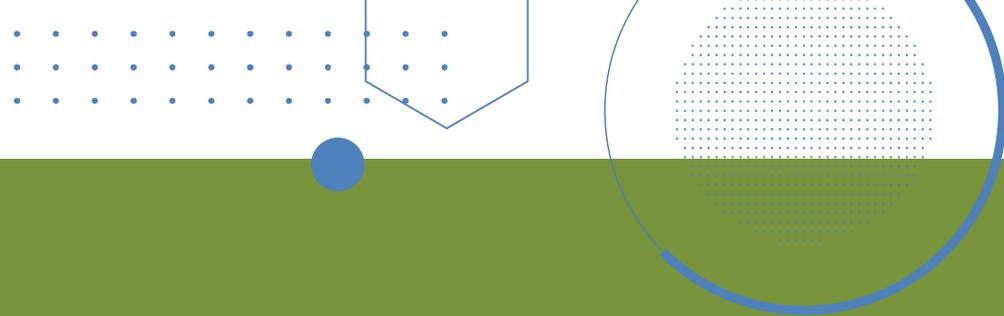


2025年11月26日(水)
(独)大学改革支援・学位授与機構(NIAD-QE)
野田 文香

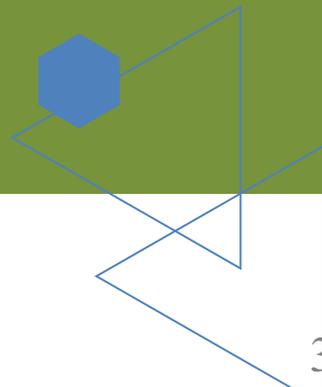
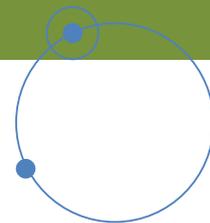
本日のアウトライン

1. 日本が直面する課題と大学教育に求められる役割
2. マイクロレデンシヤルとは何か？
3. 世界に広がるマイクロレデンシヤル
4. 日本の大学教育における今後の展望





1. 日本が直面する課題と 大学教育に求められる役割



日本の高等教育にかかわる状況



世界規約(2019)

東京規約(2011)

人口減少・少子高齢化

- 大学の定員割れ⇒「18歳中心主義」からの脱却
- 労働力不足: 15~64歳人口60%→51%(2050)

リカレント教育・リスキリング

- 特定の知識・スキルの習得に焦点化した短期学習の証明(マイクロクレデンシャル)に対する関心

UNESCO規約と国際モビリティ

- 国際モビリティを進める「東京規約」「世界規約」に日本が加盟したことで、高等教育機関は、**マイクロクレデンシャルを含む正規教育外学習の認定・承認が求められている**

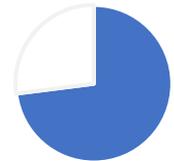
労働市場におけるスキルギャップの問題

● 企業幹部への調査



73%

スキルを最新状態に保つことに苦心している



73%

新入社員の基礎的なスキル・知識に大きなギャップを感じる



63%

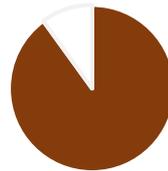
適切なスキル人材を見つけるのが困難である

●労働スキルの維持・向上に責任を負うべきは：
政府(91%)、**高等教育機関(82%)**、中等教育機関(46%)

● 企業への調査

41.5%
(n=82)

社員に対して大学等が実施するリカレント教育の受講を指示・奨励している

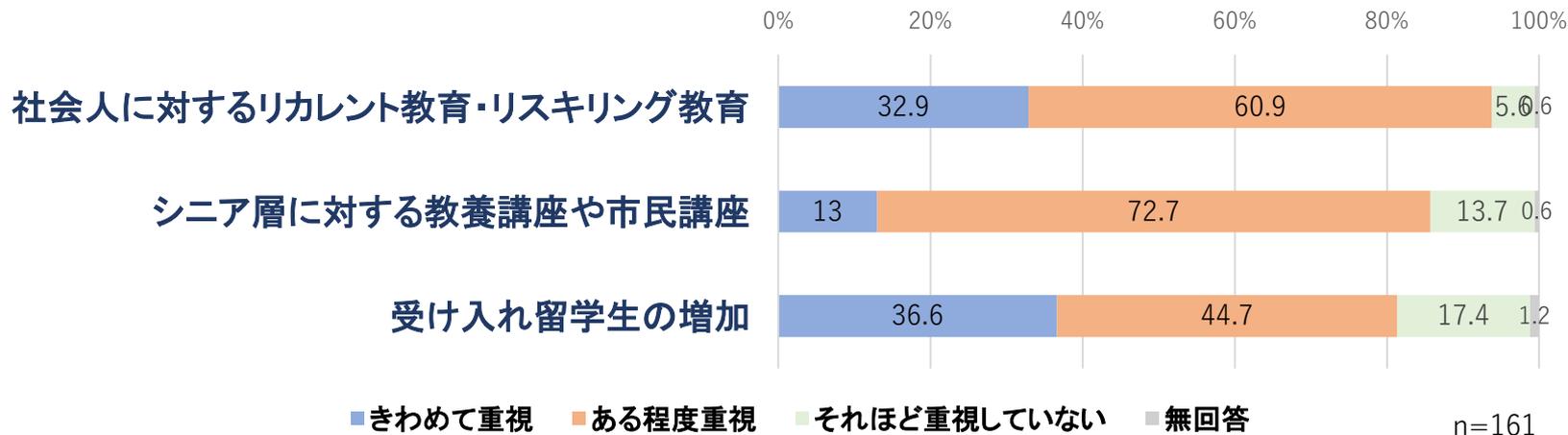
89.2%
(n=83)

社員に大学等のリカレント教育を受講させることに興味がある

- そのうち、現在リカレント教育プログラムを大学等と共同で「開発している」のは16.2%、「開発していない」のは83.8%(→その中で半数の企業が、共同で開発することに「興味がある」と回答)

18歳人口の減少を見据えた新たな高等教育戦略

【大学等理事長調査より】



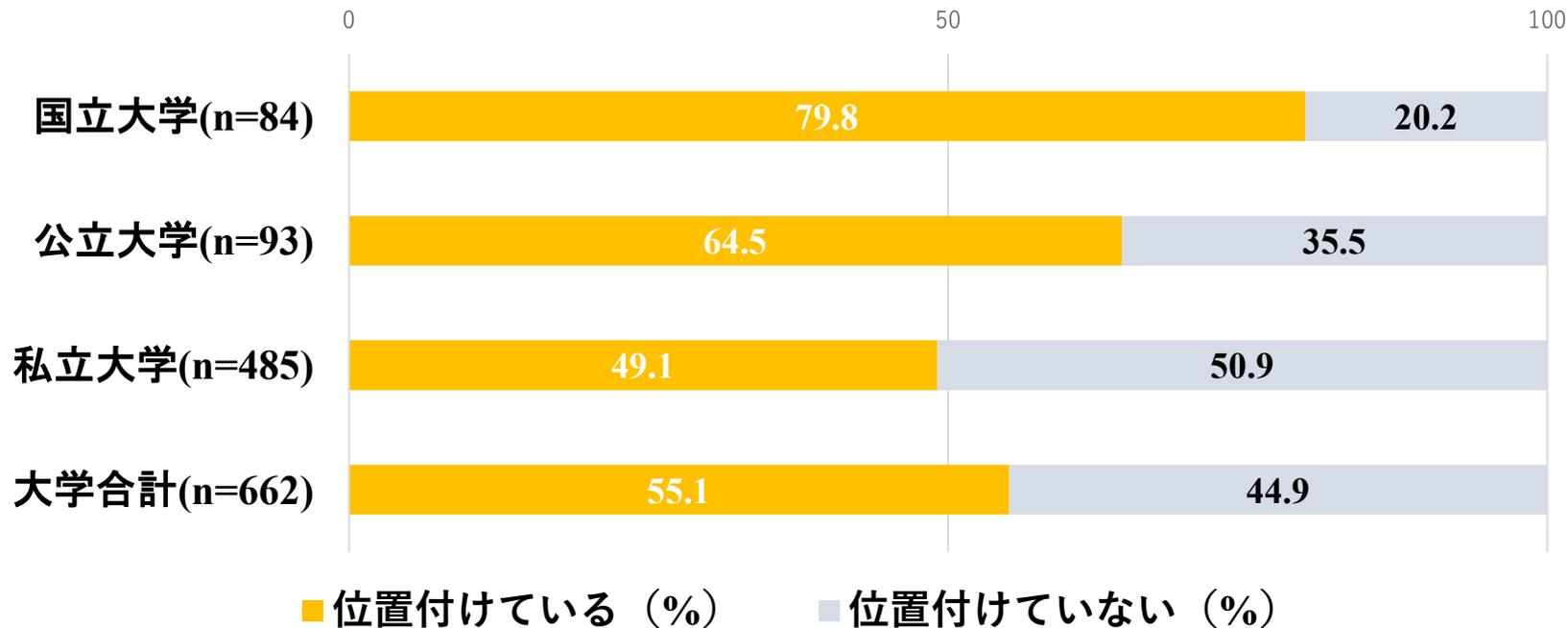
出典：危機の時代の大学経営の課題について考える—「理事長調査」報告（吉武・和田、2024）

大学の学位課程における社会人入学者

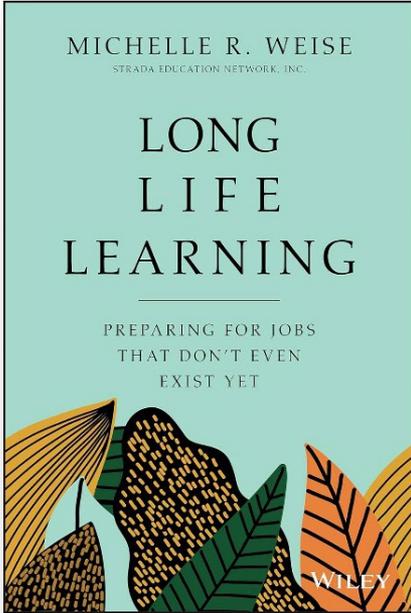
学部：2.6%，大学院課程：16.1%

（中央教育審議会大学分科会，2025）

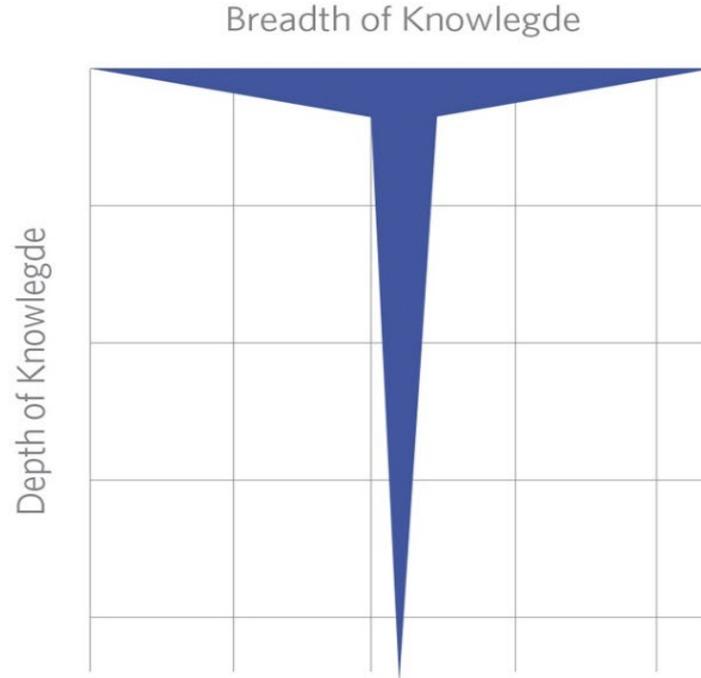
大学の方針・中長期目標における リカレント教育の位置づけ(2024)



人生100年時代の
リカレント教育
リスキリング

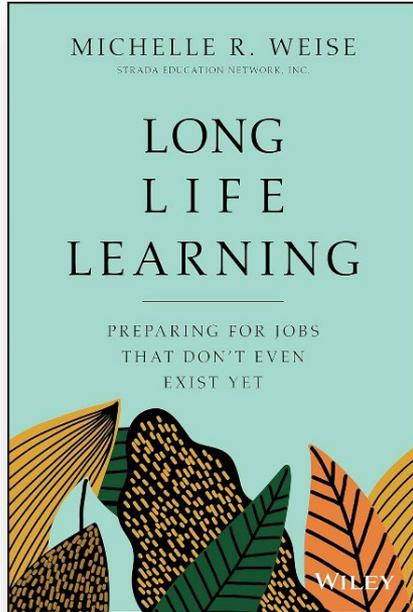


**T-SHAPED INDIVIDUALS
COMBINE BROAD
KNOWLEDGE AND SKILLS
WITH DEEP EXPERTISE IN A
NARROW FIELD**

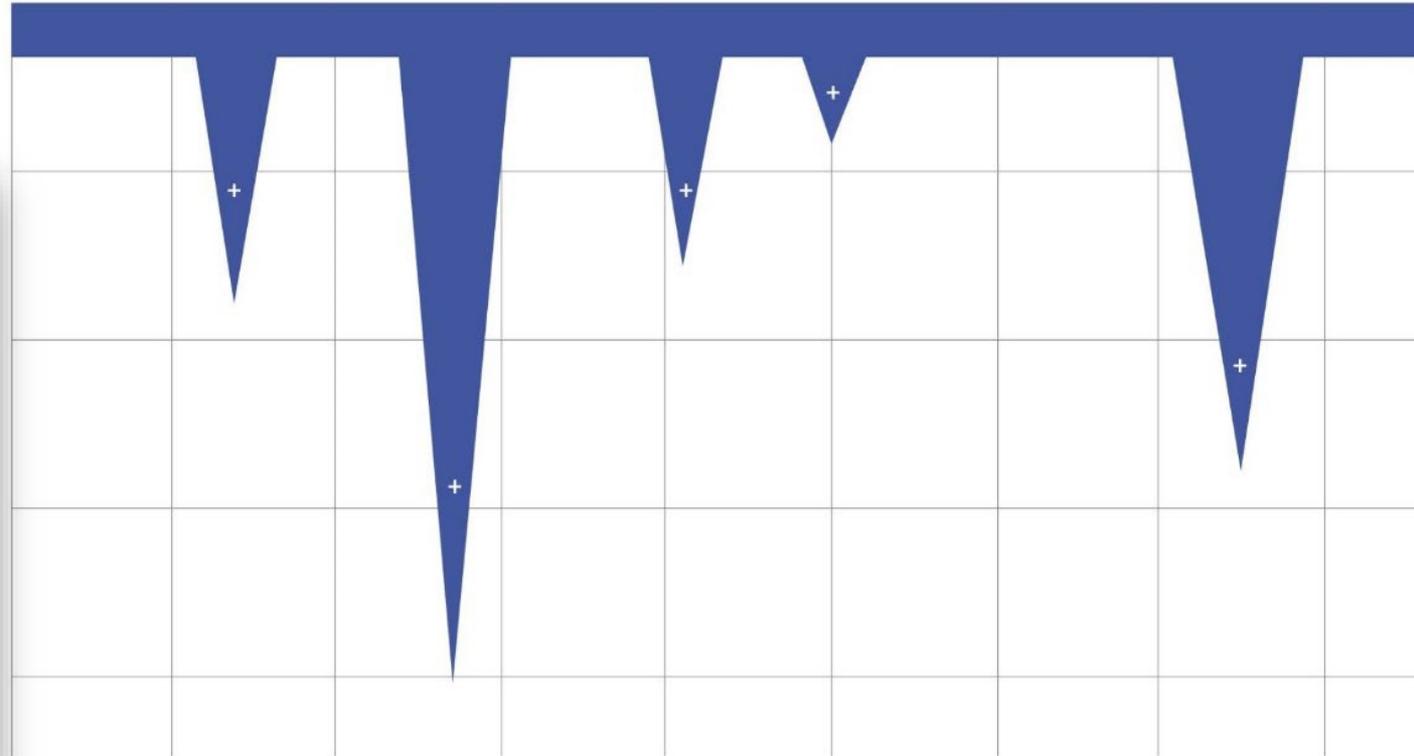


RETURNING TO LEARNING THROUGHOUT AN EXTENDED WORK LIFE

人生100年時代の
リカレント教育
リスキリング



Human skills for a 100-year life



日本が締結したUNESCO規約

目的: 地域の経済・文化・技術発展を目指し、国境を越えたモビリティを促進

- ◆ 国際モビリティを進めるため、制度の異なる高等教育等の学位・資格(qualifications)を柔軟に承認
- ◆ 多様化・細分化する非伝統的学びによる学習成果(マイクロレデンシヤル)も正式に評価(単位化等)し、学びの継続を支援



欧州(1979,1997)

地中海(1976)

アラブ(1978;2022)

アフリカ(1981,2014)

世界規約(2019)

※日本は2022年9月に締結

学生・研究者・労働者・専門職の移動

アジア太平洋

➤ バンコク規約(1983)

➤ **東京規約(2011)**

※日本は2017年12月に締結

学生・研究者の移動

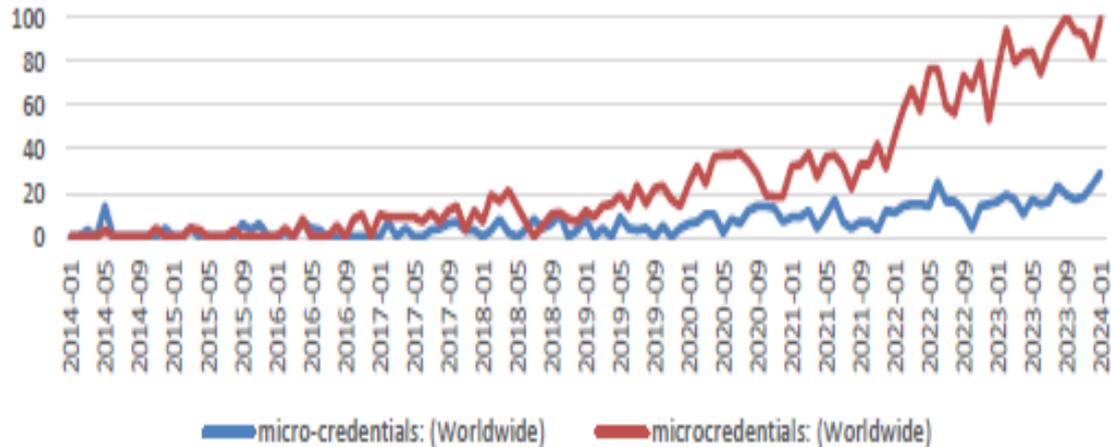
ラテンアメリカ・カリブ海(1974, 2019)

- 日本の大学は、外国のマイクロレデンシヤルをどう評価し、受け入れるか
- 日本の大学が提供するマイクロレデンシヤルの国際通用性をどう示すか

2. マイクロレデンシヤルとは何か？

Google Trends 検索：注目される“Microcredentials”

Worldwide Google searches for the word "micro(-)credentials"



2013年頃から検索結果に登場し、
コロナ禍を機に注目度が急上昇

- 失業やスキルギャップへの対応
- リスキリング政策の加速
- オーストラリア、マレーシア、カナダ、米国、英国で検索が特に増加

Source: International Baccalaureate Organization (2024)

マイクロクレデンシャルの台頭

【伝統的学位・資格】

マクロ・クレデンシャル
(macro credentials)



Just for Case 型学習

【多様化・細分化する資格】

マイクロ・クレデンシャル
(micro credentials)



Non-degree credentials, module certificate, digital badges, etc.

MOOC platform: MicroMasters (edX), Nanodegree (Udacity) and Specialisation (Coursera)

特定の知識・スキルの習得に焦点を当てた
短期学習の成果に対する証明書

- ✓ Reskilling & Upskilling
- ✓ 学位では見えにくい特定の知識・スキルの証明
- ✓ 柔軟性(オンライン、学習スケジュール)
- ✓ 短期間学習で低コストなど

Just in Time 型学習

マイクロクレデンシャルの開発(1)

プロバイダー

- 学校・高等教育機関
- 学校・高等教育機関外(企業、政府機関、非政府機関、専門職団体、資格団体など)の教育訓練サービス
- 両者の連携など

- 自学の既存の教育をベース
- アンバンドリング/再パッケージ化
- 外部連携による新規サービス

カリキュラム

他の資格との関係

- 単位付与あるいは非単位
- 単体で独立したものや、より大きな資格取得に向けて「持ち運び」「積み重ね」ができる場合も

マイクロクレデンシャルの定義例 (一部抜粋)

欧州 (Council of the European Union, 2022)	学習者が少量の学習で得た学習成果を記録したもの。学習成果は、透明性をもち明確に定義された基準に基づき評価される。<中略>…MCは独立したものや、より大きな資格に統合される場合もある。
欧州 (CIMEA & EU, 2024)	想定される単位数(1~59ECTS) 多くは1~15ECTSの学習量
米国 (Credential Engine, 2021)	1コース以上学位未満
豪州 (Australian Government, 2021)	学習量は最低 1 時間で、AQF 資格より少なく、追加的、代替的、補完的なもの
ニュージーランド (NZQA, 2025)	資格より小規模で、高等教育制度で現在提供されていないスキル開発の機会(1~40単位) ⇒10~400時間
アラブ首長国連邦 (MOE, 2022)	単位付与(1~12単位⇒15~180時間)資格で、明確に定義された基準に基づく評価を経て学習者が達成した学習成果から成り立つ

マイクロレデンシャルの開発(2)

■ マイクロレデンシャルとみなさない学習

- アセスメントが無い学習や職業学習
- アセスメントをせず、参加のみで取得できるバッジ
- マクロな資格(例えば学士、修士、ディプロマ)

学習者の知識・スキルの習得を確認する
アセスメントの重要性

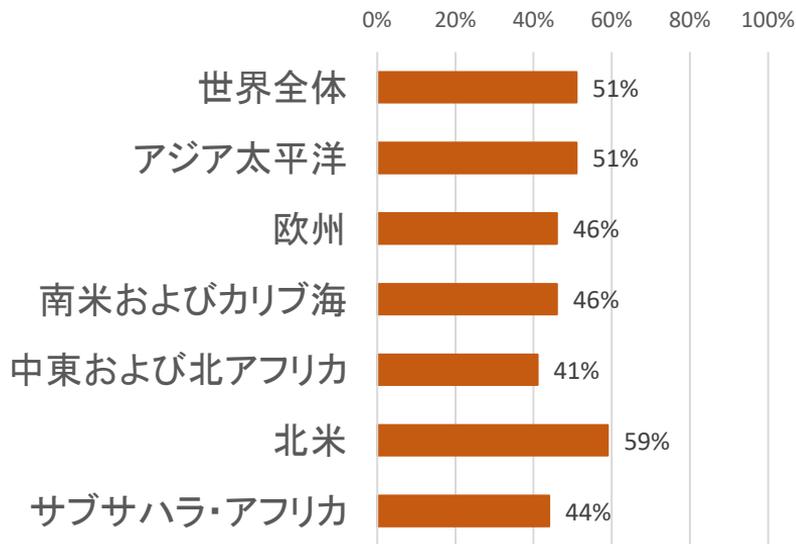


Source: Australian Government, Department of Education, 2022

3. 世界に広がるマイクロレデンシヤル

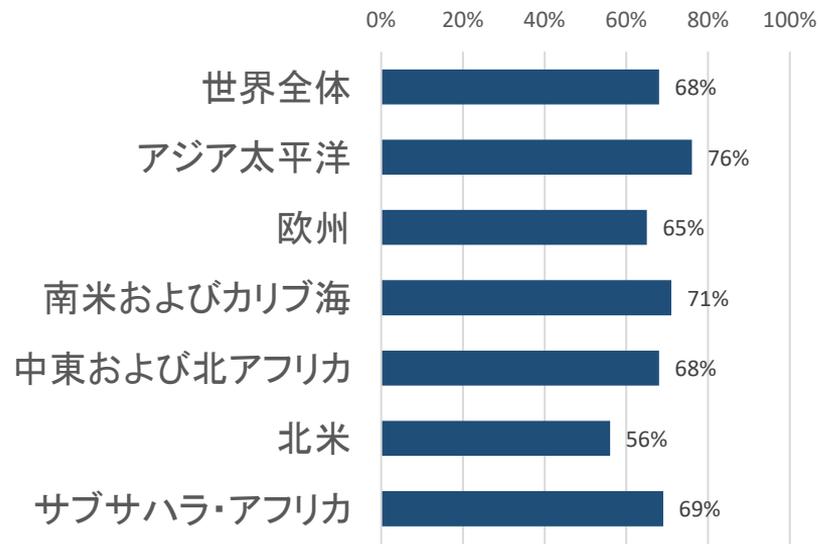
高等教育の成長戦略としての マイクロクレデンシャル

貴学ではマイクロクレデンシャルを
提供しているか



(マイクロクレデンシャルをまだ導入していない機関に対して)
貴学が今後5年以内にマイクロクレデンシャルを
導入する可能性はどのくらいか

(「高い」「やや高い」と回答)



大学が提供するマイクロクレデンシャルの例

労働・雇用政策:

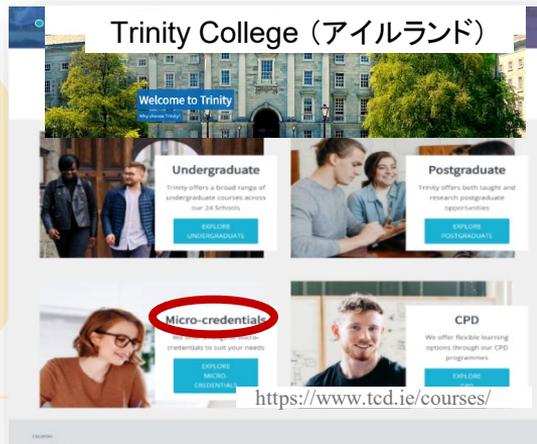
「欧州スキルアジェンダ(2020)」

EUは、アップスキリング・リスキングを目的に、2025年までにEU全域でMCの普及と質向上を支援

高等教育政策:

「ボローニャプロセス」

欧州高等教育圏49カ国が、高等教育のイノベーション策としてMC促進を提言



National University of Ireland
Maynooth (アイルランド)



- 産業界と大学が協働し、「醸造・蒸留」のMCを共同設計
- クラフトビールとウイスキー業界を支える分析コースへの強い要望に応じて開設
- 12週間(600ユーロ)、「アイリッシュウイスキー協会」が奨学金支給
- 大学院レベルの5単位(ECTS)を取得可能

<https://www.maynoothuniversity.ie/study-maynooth/postgraduate-studies/courses/micro-credential-brewing-distilling>

University of Szeged (ハンガリー)



- Courseraと連携し、Google・IBM等の業界認定資格を提供
- 一部は単位として認定



<https://u-szeged.hu/english/news/news/the-badges-available-on>

国策としてのマイクロレデンシヤル

高度人材育成・成長産業への労働力不足の対応

ニュージーランド



- 2018年にMCを国の正式な教育訓練制度として認める
- 大学が提供するMCは普及率は低く、多くは民間の教育機関によって提供
- 大学が提供するMC内容と重複せず、労働市場との関連性が高いものが求められる

オーストラリア



- 2022年、政府は高等教育におけるMCのパイロットプログラムに1,850万ドルを助成
- 大学は産業界と連携し、国の優先スキルリストに対応したMCを提供
- 2026年までに最大4,000人の学生にMCを提供できるように設計（IT、工学、医療福祉、看護、教育などの主要分野）

大学が提供するマイクロクレデンシャルの例

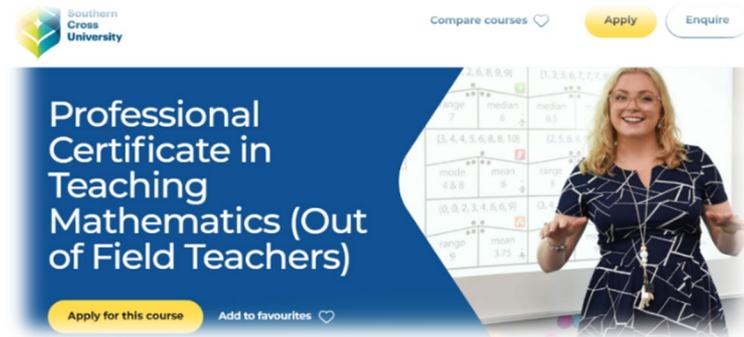
Southern Cross University: 「数学指導専門」のマイクロクレデンシャル

【背景】

- 全国的な教員不足(特に地方や過疎地域)
- 中高生の5人に2人が数学免許を持たない教師から数学を学んでいる(Australian Mathematical Sciences Institute, 2024)

【プログラムの特徴】

- 対象: 初中等教育の教員(専門外)
- 期間: 12週間(192時間): 職場実習・オンライン・自習・メンタリング
- 内容: 小学生と7~10年生の数学カリキュラム
- レベル: 大学院相当(AQFレベル8)
- 修了証: My eEquals 発行、2単位



揺らぐ学位の価値:「学位よりもスキル？」(1)

- トランプ政権1.0: 連邦政府の採用において学位要件を緩和する大統領令(2020)に署名
- バイデン前政権: 連邦政府の雇用を、学位重視からスキル重視へ転換(特にAI、IT、サイバーセキュリティ分野)
- トランプ政権2.0: **Workforce Pell法** 短期職業訓練プログラム(最短8週間~)を受ける学生も連邦助成金の対象へ拡大(2026年7月から施行予定)



© Getty Images

学位がないことを理由に、適切なスキルを持つ人材を排除すべきではないという趣旨

揺らぐ学位の価値：「学位よりもスキル？」(2)

■採用に学位要件を撤廃する一部大手企業

Apple, Google, IBM, Costco, Chipotle, Whole Foods, Nordstrom, Hilton, Starbucks, Bank of Americaが一部高給ポストに学士を必要としない声明 (Glassdoor, 2021)

シニアマネージャー、ディレクター、ビジネスコンサルタント、アカウントエグゼクティブ、ソフトウェアエンジニア、アナリストなど

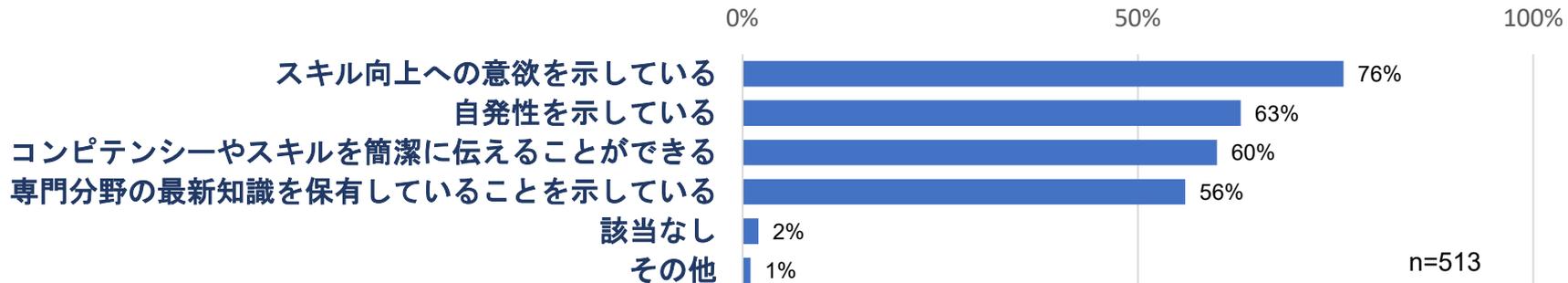


労働市場におけるマイクロレデンシャルの評価

過去2年間でマイクロレデンシャルを履歴書に記載する求職者が増加している



履歴書にマイクロレデンシャルが含まれることのメリットは何か(複数回答)



高等教育を取り巻く環境変化

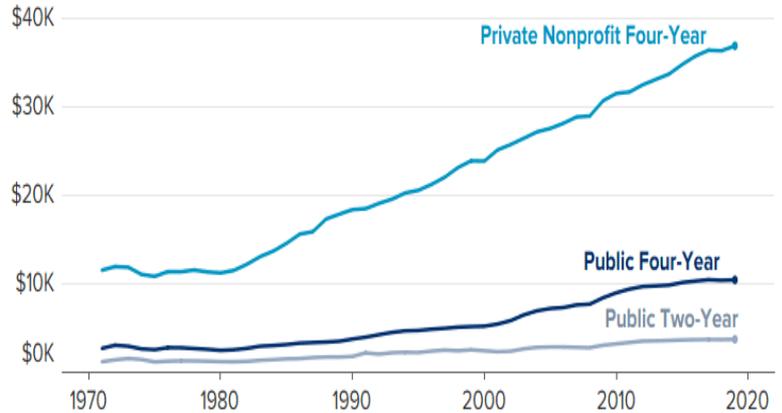
少子高齢化と大学入学者数の減少

- 生産年齢人口の減少とスキル不足：
出生率の低下& 2030年までに団塊世代の9割が退職 (Perna, 2023)
- 高等教育の入学年齢層の縮小：
入学者数は2025～2029年にかけて15%減
総在籍者数も2012～2029年の間に15%減
(Grawe, 2018 ; 2021)
- 学生登録者数：
学位プログラムではなく、短期プログラムの
スキルベースの資格に傾いている
(National Student Clearinghouse Research Center, 2023)

高騰する大学の学費

Rising college costs

Average tuition and fees, adjusted for inflation (data in 2019 dollars)



SOURCE: The College Board, Trends in College 2019 report



Source: CNBC, 2023

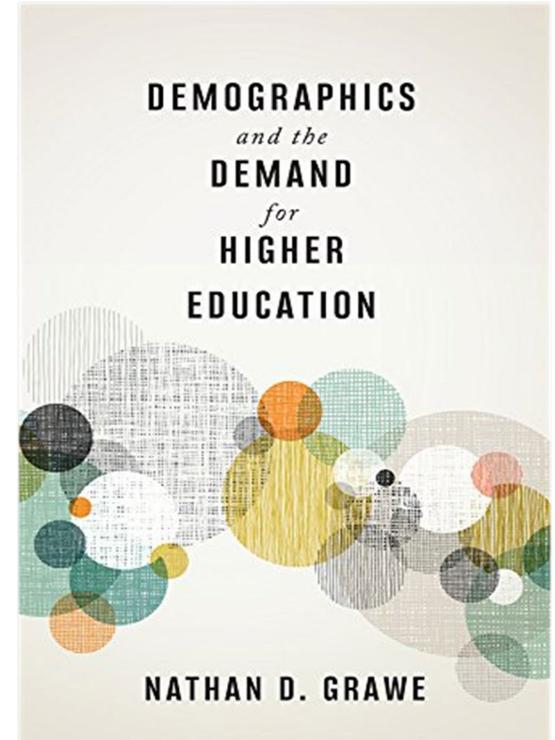
大学経営の生き残り戦略としての側面

□200億米ドル市場といわれるマイクロレデンシャルが新たなビジネスモデルに

- 少子高齢化と入学者数の減少
- 大学への公的助成金の縮小
- 教育研究の人材コストの上昇(非正規雇用の増加)

(The Chronicle of Higher Education, 2024)

- 現状のままでは、全米の約4,000大学の50%が今後10年以内に統廃合・閉鎖・破産すると予測(Clayton Christensen, 2018)
- 特に北東部と中西部の地方の高等教育機関(さらに小規模私立大学)については、2026年から急激な減少が始まると推測 (Grawe, 2018)



大学が提供するマイクロクレデンシャルの例(1)

■不足しているスキルを補完するMC

例)

- ✓ 工学の修士課程の学生が、「プロフェッショナル・ライティング」のMCを取得
- ✓ 歴史学専攻の学生が、「人種」に関する文化的コンピテンシーを学ぶMCを取得



ウィスコンシン州立大学システム(ミルウォーキー校)

成績証明書に記載されるため、履歴書や職務経歴書に容易に追加。デジタルバッジが付与される場合は、LinkedInやその他のキャリアネットワーキングサイト等を活用

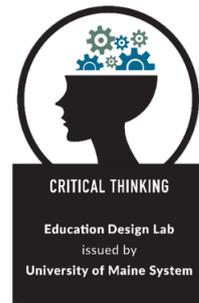
大学が提供するマイクロクレデンシャルの例(2)

■社会的弱者に対する学習機会向上のためのMC

- ✓ 服役中の学習者、低所得の成人、移民、難民、ネイティブアメリカン等も対象
- ✓ 農村部在住者、地元企業のニーズへの対応(地域活性化)
- ✓ ソフトスキル(21世紀型スキル)も提供(例:「レジリエンス」「クリティカルシンキング」)

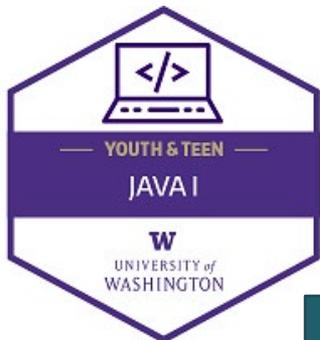
⇒ 地域の企業と対話し、どのような分野・スキルが誰に求められているかを市場調査で把握したうえで、コースを設計し、広報を行っている。

メイン州立大学システム



大学が提供するマイクロレデンシヤルの例(3)

■ 小中高生を対象としたMC



■ 高校生対象の非単位コース(例)

- Python コーディング
- Java コーディング
- アルゴリズム的思考:
プログラミング基礎
- eスポーツ
- 大学進学準備のライティングスキル
- 建築学
- エンジニアリング設計とプロセス概論
- エンターテイメントとメディア
- オーディオ制作
- 映画の芸術
- 脚本ワークショップ
- 作家ワークショップ
- デジタルフォト
- 水彩画

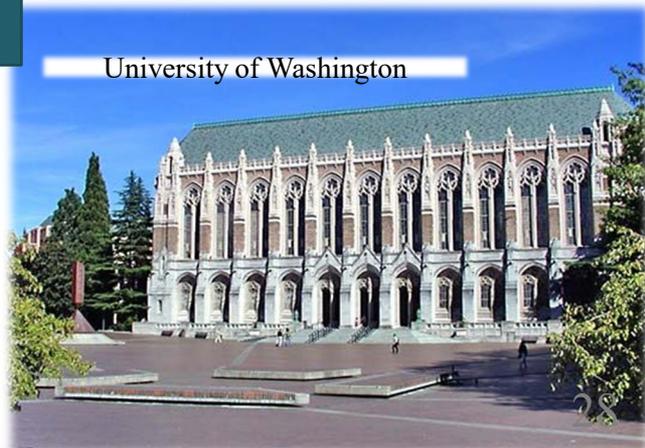
⇒ 大学願書や履歴書、SNS等で電子共有

■ 小中学生対象のコース(例)

- Python入門
- デイベート
- 微生物の探求
- ナノテクノロジー
- データベース
- 3Dデザイン
- 電気自動車入門
- 自動運転車入門
- ミュージカルシアター
- アクターズワークショップ
- 作家ワークショップ
- ラテン語学習

University of
Washington:
Youth & Teen
Programs

University of Washington



学位プログラムにおける 「GoogleやIBMの業界認定資格」の単位化

マイクロレデンシャル Professional Certificate	資格枠組み NSQF Level
Google Data Analytics	4.5
Google Project Management	5
Google Digital Marketing and E-Commerce	4.5
Google UX Design	4.5
IBM Data Engineering	5
IBM Data Science	5
IBM Cybersecurity Analyst	5
IBM DevOps and Software Engineering	5
IBM Data Analyst	4.5
IBM Full Stack Software Developer	5

- National Education Policy (2020) のスキル開発戦略の一環でマイクロレデンシャルを強化
- Coursera上で取得したGoogleやIBMの業界認定資格を学位課程の単位として認定可能
- 2023年には1分間に1件だったCourseraの「生成AI」コースの登録数が、2024年には1分間に4件に急増
- 学習者の21%が業界認定資格取得後に新たな職を得ており、32%が収入増を経験 (Coursera, 2023)
- マイクロレデンシャルを学士課程の単位として最大50%まで認定できるガイドライン(2024)を導入 (スキル型大学では最大70%まで認定可)

マイクロレデンシシャルの積み重ねによる 柔軟な学位取得制度の導入

シンガポール国立大学 (School of Continuing and Lifelong Education)

■ 目的

- 社会人向けの短期スキル習得
- キャリア形成支援

■ 対象者

- 社会人
- 若手専門職
- 学位プログラムを目指す学習者

■ 特徴

- 短期集中型プログラム(1~6日の短期コースや1学期のアカデミックコース)
- **スタッカブル(積み上げ型)設計**
- **デジタルバッジ付与**
- 産業界との連携

■ コース(例)

データサイエンス、AI、テクノロジー、デジタル思考、デジタルストーリーテリング、ビジネスマネジメント、リーダーシップ、物流・倉庫管理、メディアコミュニケーション、ネットワーク心理測定、音楽制作 など



Control Analysis and Design

COLLEGE OF DESIGN AND ENGINEERING (CDE)
Next Available Date: TBC

Professional Certificate



Data Analytics in Social Research

FACULTY OF ARTS & SOCIAL SCIENCES (FASS)
Next Available Date: TBC

Professional Certificate



Design Thinking and Designing User Experience

FACULTY OF ARTS & SOCIAL SCIENCES (FASS)
Next Available Date: TBC

Professional Certificate



Digital Storytelling

FACULTY OF ARTS & SOCIAL SCIENCES (FASS)
Next Available Date: TBC

Professional Certificate



Electric Drives

COLLEGE OF DESIGN AND ENGINEERING (CDE)
Next Available Date: TBC



Infrastructure and Construction Project Management

COLLEGE OF DESIGN AND ENGINEERING (CDE)
Next Available Date: TBC



Media Communication

FACULTY OF ARTS & SOCIAL SCIENCES (FASS)
Next Available Date: TBC



Music Production Toolkit

YONG SIEW TOH CONSERVATORY OF MUSIC
Next Available Date: TBC

大学が運用するマイクロレデンシシャルのパターン例

1



既存の学位プログラムのカリキュラムをモジュール化し、一部を切り離して再パッケージ化するケース

2



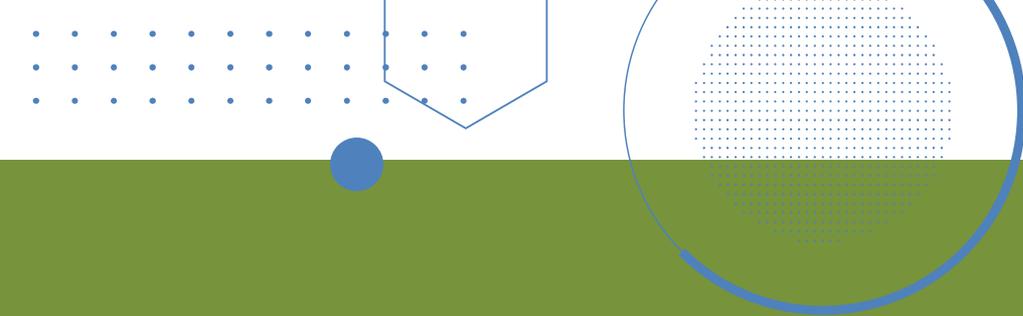
学位プログラムに企業の業界認定資格 (Google, IBM, Microsoftなど) を単位として組み込む「学位+企業バッジ」ケース

3

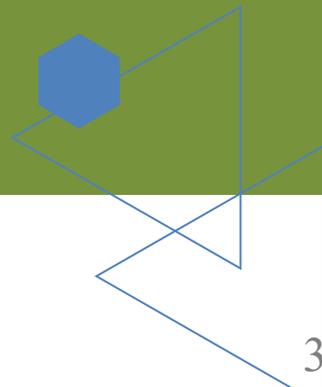
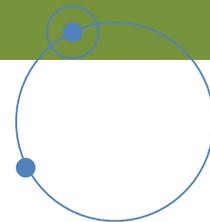


学位プログラムとは独立したプログラムとして提供するケース





4. 日本の大学教育における今後の展望



大学が提供するマイクロレデンシヤル(例)

■ 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」(内閣府・文部科学省・経済産業省で創設)

- ・リテラシーレベル, リテラシーレベルプラス
- ・応用基礎レベル, 応用基礎レベルプラス

例) 千葉大学オープンバッジ



MDASH
Advanced Literacy

Approved Program for Mathematics,
Data science and AI Smart Higher Education,
designated by the Gov of Japan

数理・データサイエンス・AI
教育プログラム認定制度
応用基礎レベル

■ 科目等履修生の修了書

■ Japan Virtual Campus (JV-Campus)

■ サイバー大学

2024年から既存の学士(IT総合学)を取得するための学位プログラムを分割し、少量かつ専門テーマごとにクラスター化した複数科目を修了した証として、MCの提供開始

(分野: AI、データサイエンス、セキュリティ、ネットワーク、ソフトウェア、起業、経営、マーケティング、マネジメントなど)

■ 履修証明書 (履修証明プログラム)

(学校教育法第105条)

	(2018)	(2022)
開設大学	168大学	→ 207大学
受講者数	5,002人	→ 9,314人
証明書交付者	3,460人	→ 6,703人



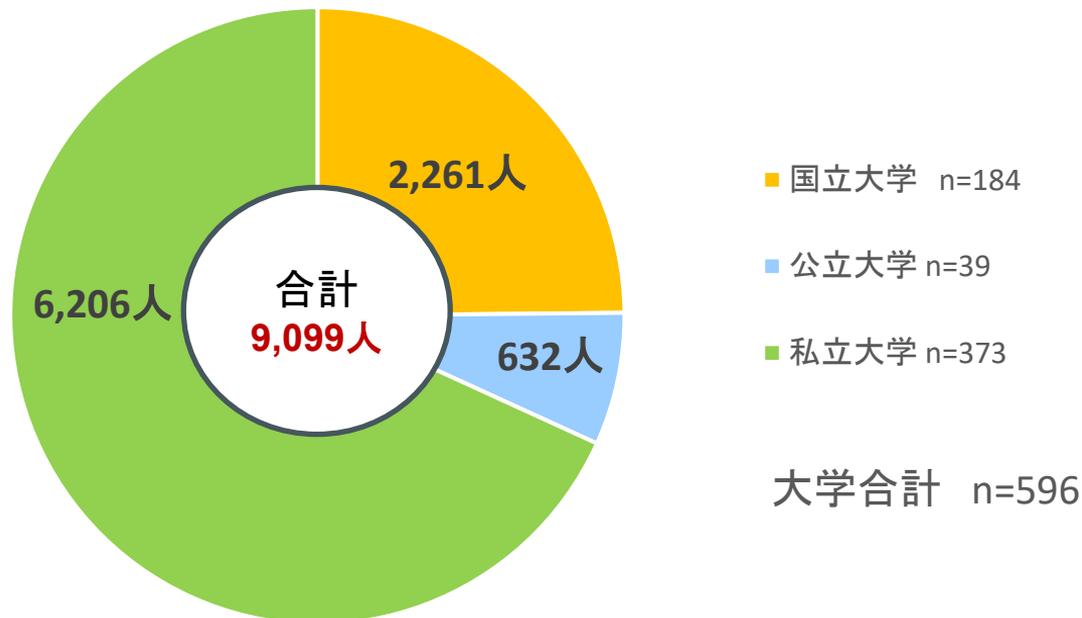
例) 早稲田大学オープンバッジ

大学(大学院含む)における履修証明書交付者数



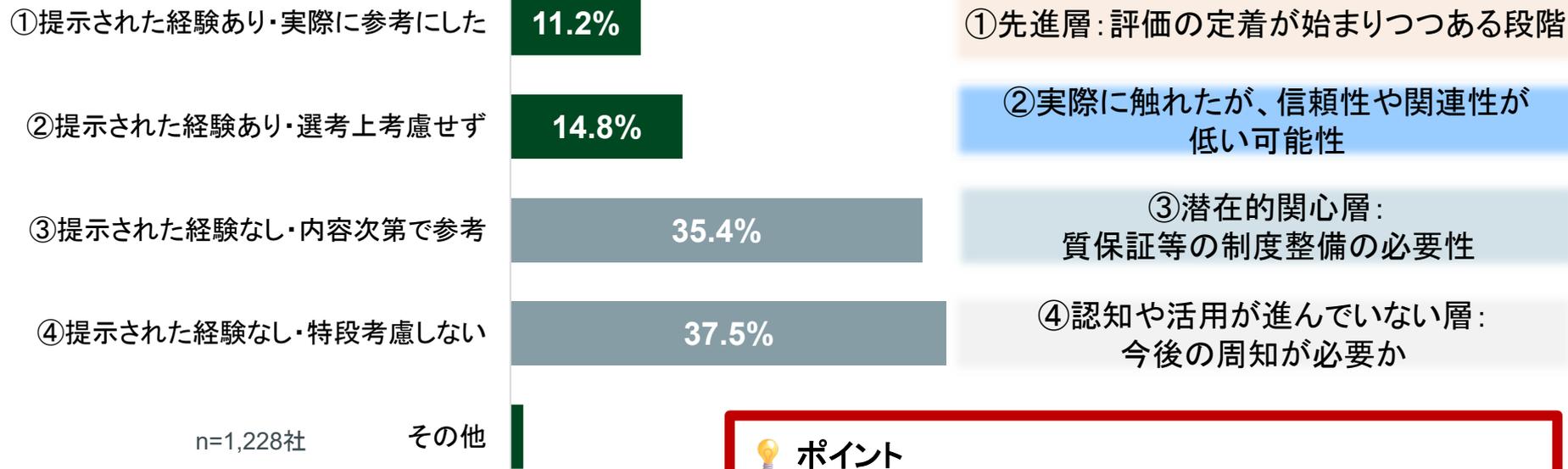
ポイント

- デジタルバッジとしてどの程度発行・共有されているかは、現時点では把握できていない
- 成果が社会のなかで見えにくいまま埋もれてしまう可能性
- 学び直しの成果を社会にどう見せ、活用につなげていくかが、これからの焦点



出典: 文部科学省委託事業「令和5年度大学等におけるリカレント教育の実施状況に係る調査分析」成果報告書(PwC Japan, 2024)

日本の労働市場における マイクロレデンシャルの理解・活用状況(2025)



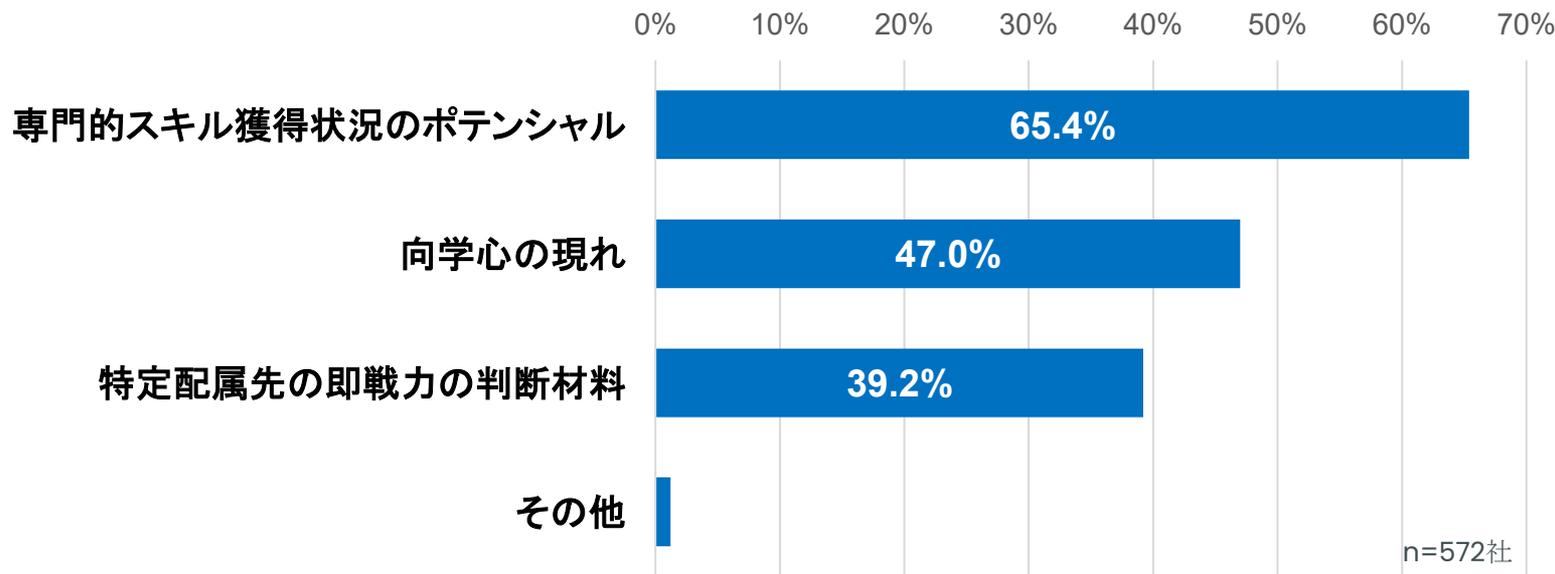
※以下の出典データを基に登壇者が分析

出典: 文部科学省(2025)『令和6年度先導的の大学改革推進委託事業「大学等における学修歴証明書のデジタル化の普及及び社会への対応に関する調査研究」報告書』デロイトトーマツ(令和7年3月)

💡 ポイント

- 多くは「MCを提示された経験なし」: 約7割
- MCを提示された雇用者: 26%
- 実際に活用した企業: 1割強
- **ただし「内容次第で参考にする」潜在的関心層: 35.4%**

雇用者がマイクロレデンシヤルを参考にした(したい)理由(2025) (複数回答)



※以下の出典データを基に作成

出典: 文部科学省(2025)『令和6年度先導的の大学改革推進委託事業「大学等における学修歴証明書のデジタル化の普及及び社会への対応に関する調査研究」報告書』
デロイトトーマツ(令和7年3月)

日本マイクロクレデンシャル機構の設立(2025年11月)

<https://micro-credential-jwg.org/>

目的・事業内容

- MCの仕様・標準の策定および普及
- 第三者によるMCの外部認証制度の構築・運営
- MCの可視化・流通促進
- 政策提言および国際連携の推進



一般社団法人

日本マイクロクレデンシャル機構

JAPAN Micro-Credentials Organization

民間・教育界・学術界・産業界の関係者が
連携し、公益に資する組織

マイクロクレデンシャルのフレームワーク(枠組み)1.0

Micro-credential Framework 1.0

マイクロクレデンシャルをデジタル発行するためのガイドライン3.0

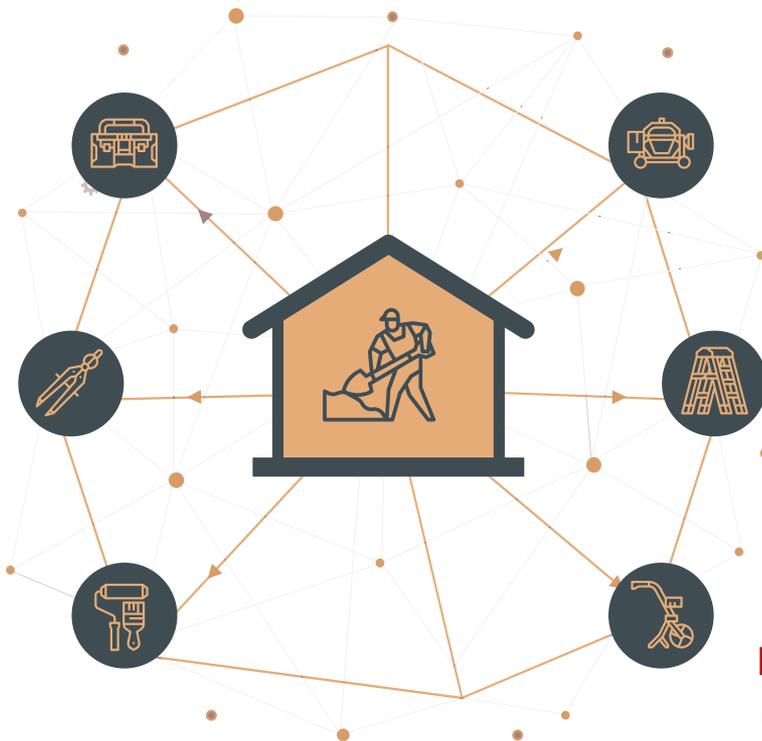
Guidelines for Issuing Micro-credentials Digitally 3.0

マイクロレデンシシャルの**質保証**の核となる要素： 求められる提供情報の標準化

■ プログラムの目的

■ 学習内容・方法

■ 学習成果
(知識・スキルなど)



■ 学習時間数
(単位数)

■ レベル
(資格枠組みQF)

■ アセスメント
(プロセス・方法の透明性)

「資格枠組み(QF)」とマイクロレディンシャル

Japanese Educational Qualifications Framework

「どのくらいのレベルの知識やスキルを身につけたか」を社会にどう伝えるか？

【日本の教育資格枠組み】

文部科学省より認定(2025)：

中央教育審議会第181回大学分科会/
第15回高等教育の在り方に関する特別
部会(R7.1.28)、第133回生涯学習分科会
(R7.3.17)

MCが**学校教育制度のどのレベル**
(例:学士レベル6・修士レベル7)
に相当するかを国内外で共通に
理解するための参照ガイド

レベル	教育資格
8	博士
	修士
	修士(専門職)
7	教職修士(専門職)
	法務博士(専門職)
	学士(医学、歯学、薬学(臨床目的)、獣医学)
6	学士 — 認定専攻科における単位修得に基づきNIAD-QE が授与するものを含む(*1) ・短期大学 ・高等専門学校
	学士(専門職)
	高度専門士(*2)
	短期大学士
	準学士
5	短期大学士(専門職)
	専攻科2年以上修了証書 ・高等学校 ・中等教育学校後期課程 ・特別支援学校高等部
4	専修学校専門課程1年制修了証書 専攻科1年制修了証書 ・高等学校 ・中等教育学校後期課程 ・特別支援学校高等部
	卒業証書 ・高等学校 ・中等教育学校 ・特別支援学校高等部 ・専修学校高等課程
3	高等専門学校3年次修了証書 高等学校卒業程度認定試験合格証書
	卒業証書 ・中学校 ・義務教育学校 ・特別支援学校中部
2	中学校卒業程度認定試験合格証書
	卒業証書 ・小学校 ・特別支援学校小学部
1	

(*1) NIAD-QE が行う審査に合格した者のみ学士が得られる

(*2) 文部科学大臣認定を受けた課程の修了者は大学院入学資格が得られる

(*3) 大学、専門職大学、短期大学、専門職短期大学、高等専門学校には認証評価の受審義務がある

履修証明書 A (level 7 ?)

数理・データサイエンス・AI
教育プログラム認定制度
リテラシーレベル(level 6 ?)

JV-Campus 科目 A
(level 6 ?)

履修証明書 B (level 5 ?)

Digital Badges

MOOC certificates

マイクロレデンシヤルの今後の展望と課題

質保証・通用性に関する制度整備

■ 資格枠組み(QF)との関連づけ: マイクロレデンシヤルのポータビリティ (→デジタルバッジ)

- ・ 積み重ね (stacking) や組み合わせ (combining) による柔軟な学習経路
- ・ 労働市場での評価の目安

学修歴のデジタル化

■ 発行者・学習者・雇用者が**共通に理解** **できる言語や枠組み**

■ 学修の**所有権は個人へ**

- ・ 学びを自ら管理し、キャリアを語る手段として主体的に活用していく (ILO&UNICEF, 2025)

産学間の共通認識の醸成

■ 労働市場によるスキル評価の動き

- ・ 企業は、働き手の主体的な学びを促す仕組みを整え、リスキング等で得たスキルや成果を採用や処遇に反映する体制を構築すべきである (経団連、2025)

■ 産学連携によるスキルの擦り合わせ



学習者

「どんなスキルを身につければ企業に評価されるのか分からない」



人事担当者

「履歴書を見ても、この人がどんなスキルを持っているのか分からない」

ご清聴ありがとうございました

